

INTERVIEW

LNG船4隻の調達にプロジェクトファイナンス

米国で生産されるLNGを日本などに輸送

資源ファイナンス部門 石油・天然ガス部第1ユニット
鈴木 洋之 調査役 (当時)、香田 華奈 係員に聞く



鈴木 調査役



香田 係員

LNG輸送船調達へのプロジェクトファイナンス

2015年9月に合計4件(隻)のLNG船調達に関するプロジェクトファイナンス契約に調印しました。本融資はいずれも民間銀行との協調融資によるものです。

1 中部電力(株)と日本郵船(株)が50%ずつ出資するSPCへの融資2件(株)三井住友銀行と(株)三菱東京UFJ銀行との協調融資

借入人:パナマ国法人TRANS PACIFIC SHIPPING 6 LIMITED

JBIC融資金額:129億4,900万円限度
協調融資総額:184億9,900万円

借入人:パナマ国法人TRANS PACIFIC SHIPPING 7 LIMITED

JBIC融資金額:130億7,700万円限度
協調融資総額:186億8,200万円

2 中部電力(株)と(株)商船三井が50%ずつ出資するSPCへの融資2件(株)三菱東京UFJ銀行と(株)三井住友銀行との協調融資

借入人:パナマ国法人TRANS PACIFIC SHIPPING 5 LTD.

JBIC融資金額:128億9,400万円限度
協調融資総額:187億1,300万円

借入人:パナマ国法人TRANS PACIFIC SHIPPING 8 LTD.

JBIC融資金額:130億6,200万円限度
協調融資総額:188億6,300万円

LNG供給源の多角化、LNG価格の多様化に貢献

「フリーポートLNGプロジェクト」は、中部電力と大阪ガス(株)、米国法人Freeport LNG Expansion, L.P.が出資する米国法人FLNG Liquefaction, LLC (FLIQ社)が、米国テキサス州フリーポートに天然ガス液化設備(第1トレイン)を建設し、米国内で産出されるシェールガス等の天然ガスを原料としてLNGを生産するプロジェクトです。JBICは、2014年10月にFLIQ社との間で、26億米ドル限度(JBIC分)のPFによる貸付契約を結んでいます。

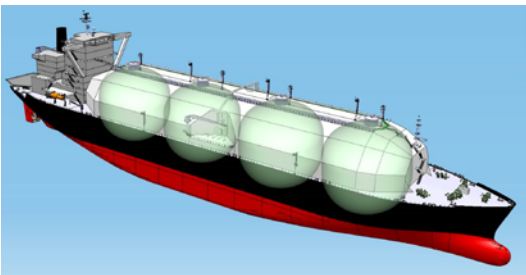
「FLIQ社が第1トレインにて生産するLNG(予定年間生産量は464万トン)は、全量を中部電力と大阪ガスが引き取ります。東日本大震災後、天然ガスの安定的確保と調達コスト削減は我が国の重要課題となっており、米国の天然ガス市場価格をベースにLNGを調達するフリーポートLNGプロジェクトは、LNG供給源の多角化、LNG価格の多様化に貢献するものです。

今回の融資は、主にフリーポートLNGプロジェクトにおいて中部電力が引き取るLNGを輸送するためのLNG船4隻の調達資金に充てられます。JBICは、日本企業によるLNGバリューチェーン(LNG事業参画、開発、プラント建設・運営、輸送に至るシステム)の強化に向けた取り組みを長年にわたって支援しており、LNG船の調達支援でも豊富な実績があります」と鈴木調査役は今回の融資の背景を説明します。

電力会社と海運会社の連携で柔軟なビジネス展開

フリーポートLNGプロジェクトは、2018年の完成を予定しており、LNG船の調達に対するPF組成の相談があったのは2015年2月でした。

「本件は、電力会社が海運会社と連携し、発電用燃料となる天然ガスの長期安定的な確保と調達コストの削減を図る点の特徴です。これらを両立させるには、電力需要とLNG価格の変動に的確に対応することが重要となりますが、電力会社と海運会社の連携により、最適な調達を行うのみならず、電力の需要変動や燃料の価格変動に合わせ、輸送を含むマーケティングビジネスを拡充する等、新たなビジネス展開も可能となります。他方、4隻分の契約は、1隻ごとに関係者や建設期間等が異なり、LNG船の運用形態も複雑になるため、期待されたスケジュールの中で、リスク評価と適切なリスクアロケーションを確保することがポイントとなりました」と鈴木調査役。



国際協力銀行(JBIC)は、2015年9月、中部電力(株)と日本郵船(株)が50%ずつ出資する特別目的会社(SPC)との間で、プロジェクトファイナンス(PF)による2件の貸付契約に調印。また、同日、中部電力と(株)商船三井が50%ずつ出資するSPCとも2件のPFによる貸付契約を結びました。

本融資は、中部電力などが参画する米国の「フリーポートLNGプロジェクト」で生産される液化天然ガス(LNG)の輸送に主に使用されるLNG船合計4隻を調達するための資金となります。

*「海外展開支援融資ファシリティ」の資源・エネルギーの確保・開発の促進に係る案件。



2015年4月に入行したばかりの香田係員も実務を担当しました。

「最初から大きなプロジェクトに参加させていただき戸惑うことも多かったのですが、先輩の指導を仰ぎながら、各部署との連絡や書類作成に取り組みました。

スポンサーの皆様と接することも多く、LNG船の技術など専門的な勉強もしました。4隻とも、近く拡張が完了するパナマ運河に対応する「ポスト・パナマックス」と呼ばれる大型LNG船ですが、それぞれ仕様・価格・完成時期等が異なります。契約までのスケジュールも厳しい中、契約書や各書類の1つ1つにそれぞれの違いを間違いなく反映していかなければならず、緊張しましたが、大変勉強になりました。無事契約調印が完了した時は、安心しました。」と振り返ります。

企業間連携による船舶調達・運用のモデルに

正式調印は、2015年9月30日に4件同時に行いました。「短期間で契約調印に至ることができたのは、これまでのLNG船の調達支援の経験・ノウハウがあったからといえます。また、JBICは、フリーポートLNGプロジェクト向け融資においても中核的なレンダーとして参画し、我々のチームとしても、今回のLNGバリューチェーン全体の構造を理解していたことも大きなポイントとなりました。

また、中部電力は東京電力と効率的な燃料調達にかかる包括的なアライアンスを進めています。本件は当該アライアンスでも重要な取組みと位置付けられています。エネルギービジネスは規模の勝負でもあり、今後は、電力会社だけでなくガス会社や石油会社でも、海運会社や商社などを含めた企業間連携のもとでLNG船などを効率的に調達・運用する動きが加速すると考えています。今回のPFの組成では、そうした新しいビジネスを支援する点を強く意識しました。JBICとして、これからも多様な金融手法を活用した案件形成やリスクテイク機能などを通じて、日本企業によるエネルギー資源の開発や取得の促進に貢献していきます」と鈴木調査役は語ります。

「契約交渉の初期段階から調印までの実務を経験したことは貴重な機会となりました。一つの契約が多くの皆様の仕事に密接につながっていること、また、ビジネスの本質を理解した上で提案していく大切さを実感しました。次の機会には、必要なポイントで、付加価値ある具体的な提案を、主体的に発信していけるようになりたいと思っています。」と香田係員は今後の抱負を語っています。